

本
文
篇

凡 例

一、本書は、『土左日記』の伝本中、注目すべき資料である日本大学図書館蔵松木宗綱自筆本系統本『土左日記』を底本とし、右側に、今日最善本と考定せられている青谿書屋本『土左日記』をもつて対校した対校本である。

(1) 本文中誤脱と認められ、あるいは参考に供し得るかと思われる箇所は、宮内庁書陵部蔵本「宮」の略号を用いる。以下同じ)、近衛家蔵本(「近」および藤原定家自筆前田家蔵本(「定」、三条西実隆自筆本系統の三条西家旧蔵本(「三」)の四本をもって指示し、その旨を頭注として明記した。

※は、それらの該当箇所を示す。

(2) 校異の結果底本より、対校本や他の諸本の方が正しいと考えられる場合は、対校本には対校の上に、参考本の上には、頭注の校異の上に○印を附した。また、私に訂したところが三箇所あるが、本文に※を附し、頭注としてそれを記した。

二、本文は底本をできるかぎり忠実に翻刻するために、次の諸点に留意した。

(1) 丁数および表裏は、すべて底本通りとする。

(2) 仮名の字体はすべて現行のものに改めたが、仮名づかい、漢字、送りがな、反復記号など、すべて底本のままである。ただし、本文には句読点、濁点をほどこし、また、会話、引用語等には括弧を附すなどして閲読の便をはかった。

(3) 対校本は、貫之自筆本の忠実な模写本と言い得るほどのものなので、漢字と仮名の使い分けや、仮名づかい等にいたるまで、すべて原本のままとした。

三、本書には、まだ、解釈上不安定な部分もあり、不備な点も多くあるであろうと思う。博雅の方のご教示をたまわりたい。

四、巻頭に底本とした日本大学図書館所蔵の『土左日記』を縮少し複製本として加えた。ご許可くださった日本大学当局に対して厚くお礼申しあげる。

影
印
本
文

土
下
日
就
君
之
作

わかれわかれ

廿三日やまのなをよるといふにわつづく人國より
らけりもソレいふまのよしをわがうたへて
まやうそひのふれしきうろかすまやう
ふれしうろかすまやうといふまのよしをわが
をうろかすまやうといふまのよしをわが
にうろかすまやうといふまのよしをわが

廿四日海師ひのふれしきうろかすまやうといふ
わつづくもソレいふまのよしをわがうたへて
ふれしうろかすまやうといふまのよしをわが
廿五日つづくもソレいふまのよしをわがうたへて
ふれしうろかすまやうといふまのよしをわが
わが

[illegible]

午にてちやうど金まうてあんまりあけ
 らばよきわともやうな金そふしうもく
 いふんふんといふてふふこのまゝにん
 らていふんまわるといふふん　　いふも
 も神のまゝといふふんこれなまはふふといふ
 んふふふふふふふふふふふふふふふ
 けけけけけけけけけけけけけけけけ
 おおおおおおおおおおおおおおおお
 けけけけけけけけけけけけけけけけ
 けけけけけけけけけけけけけけけけ

五
ウ

うゑふてあゝふかきうらけふしみ夜もう
さんともうふちやいまこのうなほじなわ
ふあふうきう ころ月うつうきもいかりに
いづろきとていふうらけうきうとわ

九にのほろく焚きすとりまゝれありなおよん
うにきにそろうちせられさひゆふのゆいぬりて
みなうかた人わきてあつちをけぬとてぬら
るれのすゑじうをえ入ゆとてくらんとするちあ
ゆるしむちりやうかりふめじうにぬれぬ
しわうかうとうのくぬれさきこころこのふ
もはともなるしこれよりいまだここにあらざる
ゆゑにぬきをならんとしうのへもいおしは考

へるにまじりてくはるのうらみにあはる人
 もあはる人あはる人もあはる人もあはる
 ことわくしあはるもあはることもあはる
 のうらみにあはる人もあはる人もあはる
 うらみにあはる人もあはる人もあはる
 うらみのうらみにあはる人もあはる
 けいけいけいけいけいけいけいけいけい
 せえいけいけいけいけいけいけいけい
 けいけいけいけいけいけいけいけい
 のうらみにあはる人もあはる人もあはる
 おうらみのうらみにあはる人もあはる
 けいけいけいけいけいけいけいけい

なまじりくともやめて、ふとくち
のやまをせつおのこもがらふいよもあらはれ
まゐりてせんをいふにふしうとにきあふ、
祓除のまじりくもあらふにまじりくもあら
たうにせふまじりくもあらふにまじりくも
けりやうてまじりくもあらふにまじりくも
えきやうなやち、まじりくもあらふにまじりくも
うやうのうなやち、まじりくもあらふにまじりくも
こやうてまじりくもあらふにまじりくも
まじりくもあらふにまじりくもあらふにまじりくも
人をもあらふにまじりくもあらふにまじりくも
わくやうてまじりくもあらふにまじりくも

いふにうらむはあつゝあまらうにうゝん
セウ

してあもよゝこそそしうまう

十日ふつこくそあうふしあう

十日あうふふれなうそそろふをふ

ふそあもそあふふふのあうやうそあふ

そつふふそそそそそそそそそそそ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あふふふふふふふふふふふふふ

あつたがういふことゝふちもるをせうめう
 せしこもなんもいそく多ふれとちふんわき
 しこつこりうとにうきとやふしやひそむ
 と、うきれはここのねもふごうふつとを
 つたてよれまきこひいじをちがひいていけ
 つとねうきふちをふちまうてけのるさ
 ちとふちまうとこののねをちがひうき
 にすうきまうてえうきまうてふちまう
 いそくのちう　よちがふちいふちまう
 ちがひのちまうちがひいふちまうちがひ
 一日　あちうすえとねちがひちがひ
 ちがひちがひちがひちがひ

リつらにらるのまねばつちやうしやま
がきれいぬをちりけてちちれねつたや那
かわねらちやまといまてきさういねけし
てこまらちちをききあへす

十五日 ふつとつちの山をちちけくがはいわ
しけいおちかふちふらつわにアをちち
とつちいをききいふたをちちつちつちね
らけいふた そふちねいさこちちつち
とちねふちちやちんちちいささあつち
ちちちちけ

十六日 せさちやれちちねあつちとちち
ちちちちかちちちちちちちちちちち

うき世をわたりてのさへある　をきこひるま
ろにがらじとてつらうにふりてはうけりしむ
くふあはれふとてやうきをいふ　あつちやう
ろきともふとていふとてむき　あつちやう
―とんとん　あつちやうのわき　あつちやう
いふ

十八　あつちやう　あつちやう　あつちやう
すこのあつちやう　あつちやう　あつちやう
あつちやう　あつちやう　あつちやう　あつちやう
あつちやう　あつちやう　あつちやう　あつちやう
あつちやう　あつちやう　あつちやう　あつちやう
あつちやう　あつちやう　あつちやう　あつちやう
あつちやう　あつちやう　あつちやう　あつちやう
あつちやう　あつちやう　あつちやう　あつちやう

[illegible]

カエ不才

[illegible]

そのふたつにたふさふさふさのほろろわびきく
 かりくしてゆくふさふさふさふさふさふさふさ
 にちけりそふさふさふさふさふさふさふさふさ
 うふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 さふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 ゆきとふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 らふさふさ

廿三日ふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 けふふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 うふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 やふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ
 らふさふさふさふさふさふさふさふさふさふさ

しゆけなまゝにすやまをいふ。おろかきうの思
はれ。いふうゝふうたをそつていふ。
ちかものまゝにうたふ。いふのよう。かきとびん
ふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
ふ。

廿三日 いそいでる。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
あふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

廿四日 ちかものまゝにうたふ。

廿五日 ちかものまゝにうたふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

廿六日 まゝにうたふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。
いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。いふ。

じつとわらうとわらうてわらふまつするわらう
 いじつとわらうとわらふのまつしてそまつとん
 このわらうとわらふとわらうとわらうとわらう
 とわらうとわらうとわらうとわらうとわらう
 なるわらうとわらうとわらうとわらうとわらう
 せやますわらうとわらうとわらうとわらうとわらう
 けきわらうとわらうとわらうとわらうとわらう
 ふわのわらうとわらうとわらうとわらうとわらう
 まわらうとわらうとわらうとわらうとわらう
 とわらうとわらうとわらうとわらうとわらう
 くわらうとわらうとわらうとわらうとわらう
 のわらうとわらうとわらうとわらうとわらう

廿七日 せうさがたわけまゝねいさすべし
せうにくがをくねとくらのうらがくさうい
くさふ日をゆういみやこねうなやこふがふ
ことのふをぶてあふえんのようさこいさふ
えわきくえうくさめとみやこいせむもふその
けりさるいもさわいせよる うせれえねう
さるうくさくさいさくういさけりき
くういさいせやますつまけりてね
廿八日 こんねくあやまねけいさ

廿九日 ねうてゆくうらこさうてこまの
くつらういさくさくさくさくさくさく
そふいさくさくさくさくさくさく

かたきもわきもきりよう

世日 あつせうすゝくいふあつせうさせうさう
とぢやうあけりふねをうてあはれを
けろくがきいけいけいもくもくもくもく
うくみけりけりうてこみもけりうて
のまにけりうていふこみなすていふ
とふこみなけりうくもくもくもくもく
こみうていふこみうていふこみうて
とけのうていふこみうていふこみうて
いふこみうていふこみうていふこみ
いふこみうていふこみうていふこみ

二月一日 あいのまあつうむいふこみうていふこみ

こころふくみしうまのうくひかうやう
うとけりふくみしうまのうくひかうや
みぬみしうまのうくひかうや

二日わらせやうまのうくひかうや
いぬ

三日うまのうくひかうやうまのうくひかうや
のうとけりふくみしうまのうくひかうや
うとけりふくみしうまのうくひかうや
そのうまのうくひかうやうまのうくひかうや

四日うまのうくひかうやうまのうくひかうや
とけりふくみしうまのうくひかうや
うとけりふくみしうまのうくひかうや
そのうまのうくひかうやうまのうくひかうや

二日ふらふらていつかのころよりまづのとまり
 とまふまづもけつゝいかりなれどもうへはまに
 よろこび　ゆきとるゆふやうまねいもつゝさ
 つらかりさうれなけりといつゝふかふふ
 ねとこけいのふたふとちねせはうちりまに
 まふいそぐさふりやせふさうりわさきみ
 といこねきつゝてけやいもとふこのとはのこ
 のやうかりうちりちのちつゝのことさかりんち
 はづふふまゝこのやうさうとふとちもあす
 まふとわやうくさうさてもついはつふとて
 きんせまはくふさうりわさかりさうさう
 さうらんとふとこいねをばいづゝあゝあて

しやがうつらあひふゆうなくせよそこ
もともくきとへしなふにうまゆはこまぐ
ちはつてしらあひいけこみ吹きそまゆ
はしのみそしゆきものうねとんとはい
まうものいふねふなまんとふり
きさうしゆきふまうくふまふきももけ
せやまてやふよんやまてせがものあやけ
まはかりとまきいけねこはみこまうの
みねもゆうなりかなふきとけいふへき
のふまうふきふきふきふきふきふき
せんまふこもふきふきふきふきふき
みなふきふきふきふきふきふきふき

いせいりてけいふくそのむすのしかりぬ
れてわいとのありさちけやうつきのあ
なわくうきうきをいせてるとはうかひとす
のはいすきさぎのいさふきふつきはわ
すうもうくつきのふたのうきをよは
つてうちとせのこはけきのふた心かり

昔々、けりしにねりてここのかゝる
のみつじやうやまふたのほろとていし
くたわらぬまふたの病者もとよとてく
ーさにとそつやうくといふしつう
くまともわけりたることこそみやには
にきやあんううてあやさといひな
ずかうのさいまとははのちのみつ
わをえぬもつじやうとていふ

なはははよりなるべしとてふことのあらねを
 いまひととととねがやますはわさふ
 みつのうらわさねなりけりこのさうやちう
 くらりやうらひえんけりてさうなるべしあ
 けらのこのさうやちうねさうさうさう
 のをさうさうさうさうさうさうさうさう
 八 かなはのやうなるさうさうさうさうさう
 はあやとちうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうやんわりとあやさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさう
 てさうさうさうさうさうさうさうさう
 みねまはいなさう

わるいことありにいらるさあり ちよるまふに
 わまといふのこゝのえんかはさるるさあり
 けしきのもろ まえさるるさありやよめじの
 るしじのせんたふさるるさありといふれさ
 やこのちろるさありといふのちろるさあり
 のがさるるさありといふさるるさあり
 さるるさありといふさるるさありといふ
 へりさるるさありといふさるるさあり
 リさるるさありといふさるるさあり
 えさるるさありといふさるるさあり
 いさるるさありといふさるるさあり
 をさるるさありといふさるるさあり

このじとわつもわらわくーもわつーを
うもわらふもにらんわらわのつとわらわい
とのことふとらんとはわ

十日こけつとわつてのけつ

十日あつたふちてやみわくーもわらわ
しんくのこやまのうにわらわなうわらわ
へやけとらみやとふれをわてらんわらわ
しんをうみやをわらわやまわらわのけつ
ふとわらわすーうー相應寺のけつ
けつわらわとわてらんわらわとわらわ
らのけつわらわやまわらわわらわ
のけつわらわのけつわらわ

此一冊依^本作以貫之自筆
本不遠一字今書寫之及教
及改誤者也

延德二年四月廿日

權大納言宗綱

申出 沛^い耳 假名遣以下不遠一
字書寫之筆

于時慶長五年庚子曆孟春下所日